



公開シンポジウム

2日目の午後、幼児をもつ保護者の方々を対象に公開シンポジウムを開催しました。シンポジウム1では「おもちゃと子ども」、シンポジウム2では「子どもと発達」について、先生方から話題を提供いただいた後、会場に来ていた保護者との質疑応答の時間を設けました。

シンポジウム1

おもちゃと子ども



話題提供1

子どもは遊びの天才である

多田 千尋

0～6歳の子どもは遊びの一流プレーヤーだと思う。それは日本も台湾も変わらないと思う。そして、子どもたちの遊びには、いくつかの特徴がある。

- 1) 繰り返しが好きであること。毎日同じ遊びをしていても、飽きない。同じ絵本を読み聞かせしても、毎日感動する。絵本の中にも繰り返し手法がたくさん使われている。絵本作家が、子どもが繰り返しが好きだと知っているのだから、それを取り入れているのだろう。
- 2) 聞いたがり屋であること。幼稚園の先生から見ると、うるさいほど、「なぜ?」「どうして?」と、シャワーのように質問を浴びせてくる。
- 3) 触りたがり屋であること。色々なものを触らないと気がすまない。2～3歳

の子どもを連れて骨董品屋さんに行くのは、とても緊張する。触ってほしくないものほど触るからである。(笑)

- 4) 拾いたがり屋であること。道端に棒がひとつ落ちていたら、確実に拾う。大人は見逃してしまうが、子どもは見逃すことはまずない。親から見ると、拾ってほしくないものほど拾う。(笑)
- 5) プレゼントしたがりであること。先日、知らない女の子から石ころをひとつプレゼントされた。子どもは同じことをやっても飽きないから、石を拾ってプレゼントする、ということが、繰り返行われる。
- 6) ユーモアの天才であること。先日友人家族が来たときに、出前を頼んだ。私は電話口で、「きつねそば、たぬきそば」と注文していた(日本では、そばに動物の名前がついている)。そうしたら、5歳の男の子が不思議そうにこっちを見ていた。受話器を置いたら、彼が受話器をとり、何やらお話ししている。「キリンさんとゾウさんをお願いします」と一生懸命話していた。かなり真剣勝負をしていたと思う。

幼児教育の中では、案外大人がイライラしてしまったり、嫌になってしまったりすることがあると思う。しかし、見方を変えて、マイナスだったものをプラスに変えていくことができる。遊びの天才がやっている、特技なのだと思います。それが私の提案。

ぜひ今日は台湾の天才たちの話も聞かせてほしい。

話題提供2

子ども期の遊びから生涯の遊びへ

張 世宗

遊びは子どもにとって大事なことであり、もっと研究する必要がある。遊びに

はいくつかの側面がある。一つは「創作性」、もう一つは「操作性」である。「創作性」とは、想像力を豊かにするもので、例えば自らおもちゃを作ることや遊びによって想像力をはぐくむこともできる。「操作性」とは、自ら手や頭を使うことで、たとえばパズルや知育玩具などがそれに当たる。

遊びというと、昔は子どもだけに焦点が当てられていたが、少子高齢化の時代では、高齢者にとっての遊びもますます重要視されてくる。リハビリにはコストがかかるが、遊びによって健康を維持することで、リハビリに必要なコストを下げるのが期待できるからである。

日本では少子高齢化の時代となっているが、将来台湾でも同じ問題が起こる。私は現代社会の発展を農村期→工業期→IT期→保健期と考える。いまはまさに第3の時期（IT期）で、これから第4の時期（保健期）に突入しようとしている。少子高齢化社会では、高齢者が自ら遊び、自ら健康を保つことが急務になっていると思われる。

話題提供3

教師にも発達の最近接領域がある

朱 家雄

幼児教育の現場では、常に葛藤が存在する。子ども中心の教育を実施すると、教育内容が少ないと保護者からクレームが来る。逆にカリキュラムを中心にする教育を行えば、子どもの自由な時間を奪ってしまう危険性がある。現場の教師は途方に暮れることが多々ある。

ヴィゴツキーによれば、子どもには「発達の最近接領域」があるが、教師にも「発達の最近接領域」があると思う。東アジアの幼児教育の第一線にいる教師たちはみんなその問題に悩まされている。それは永

遠の課題なので、私も時には悟ったように思うのだが、また時には、分からなくなることがある。そういうことの繰り返しである。

【フロアとの質疑応答】

Q: 創作的な遊びをするときに、親が用意すべきものは何か？

【張 世宗】 親は何もしない方がいい。「遊ぶと志がなくなる」という言葉があったが、実は「遊ぶと知恵がついてくる」というのが本当のところ。今度、コミュニティおもちゃセンターを作ることにした。どんどん遊んでもらいたい。一回やって分からなくても、何回かやるうちに分かるようになる。大人より子どもの方が遊ぶのが上手。

また中国には「1人目の子は本の通りに育てる、2人目の子は適当に育てる」という言葉がある。つまり、子育てについて構えすぎないで、どんどん手放ししていくことが大切である。遊びをオープンにすること、創作能力を育ててあげること。色々な素材を提供し、自由に遊ばせることが親の役割だと思う。



Q: ゲームと遊びについて質問したい。デジタル化時代のいま、iPadとテレビのどちらの方が、子どもにとって学習効果が高いか？ メディアとうまく付き合う方法も教えてほしい。

【朱 家雄】 デジタルについて、反対する専門家が多い。しかし、デジタルがもたらす負の面はあるものの、科学はどんどん進んでいるので、その潮流を止めることはできない。デジタルによって今までできなかったことができる、という良い面もある。子どもの吸収力は非常に高いの

で、次世代はデジタルの使い方も上手である。iPadとテレビのどちらがいいかという答えは難しいが、保護者としては、親子の絆を大切に、たくさんコミュニケーションをとって、子どもを育ててほしい。

【多田 千尋】 ハイテクの話については、食べ物の問題と一緒に私は考える。子どもがカップ麺が好きだからといって、毎日食べさせる親はいない。ハイテクのおもちゃも、ほどほどにバランスを整えて、というぐらいでよいのでは。いわば主食とお菓子の関係と同じだと思う。

【張 世宗】 子どもの問題は多様。お酒もたばこも悪いことではないが、はまってしまうことが悪い。デジタルを使いすぎると人との関わり合いを失ってしまう。幼児期は親子にとって一番大事な時期だから、親子の関わりをしっかりとってほしい。

ゲームの中では死んでもリセットできるのだが、現実の世界では、命はリセットできない。テレビドラマを見ていると、確かに何かを学ぶこともある。オリジナルストーリーもある。でも、ゲームからいいことを覚えることはまずない。相手のプレイヤーを攻撃したりするわけだから。現実と区別がつかなくなる人は少なくない。

大事なのは方向性。方向性が合っていれば、目的地に行くには、飛行機で行っても、歩きで行っても、結果は変わらない。



Q: 現在台湾にも子育てや幼児教育の製品やサービスがある。子どもをどう育てるかについて、何か良いアドバイスがあるか。

【多田 千尋】 日本でも、今のお母さん(注：質問者のこと)のような質問がたくさん出る。子どものためにどうするか、というよりは、母親がどう生きるかという問題だと思う。子どもに笑ってほしかったら、自分も笑わなければならない。子どもに幸せに

なってほしかったら、自分も幸せであることを見せる。以前、「どうすれば積木遊びをうまく子どもに教えられるか」という質問を受けたことがあるが、親が一生懸命積み木をする姿を見せるのが良いと答えた。自分と同じ遊びを大人がしてくれている姿を見ると、子どもはものすごく嬉しそうな顔になる。そういう姿をたくさん子どもにプレゼントしてあげるのが良いのでは。



シンポジウム2

発達と子ども



話題提供 1

親子関係が子どもの発達にとって重要である

郭 煌宗

子どもの発達に関する早期検診に取り組んでいる。本日は子どもの早期検診、早期治療の実践についてお話をしたい。

0～18歳まで、子どもはそれぞれの段階で異なる問題を抱える。

まずは、妊娠すると超音波検診を受ける。ご存じのように、その頃は心臓など機能の問題が大きい。やがて、赤ちゃんが生まれて、育っていく過程では、機能の面から徐々に情緒の問題になってくる。

今まで、1800人～2000人ほどの子どもを、私が作ったアセスメントツールで検査し、発達に問題が見られる子どもに対して早期治療も行った。家庭で何もせずに、病院での治療のみの場合は、早期治療の3分の1は成功、3分の1は変わらず、そして3分の1は失敗と言われる。いわば、早期治療だけでは保証できない。教育も同じだと考える。

私の考え方にはあまりユニークなところはないかもしれないが、親として、子どもの生活に真心をもって参加し、子どもと一緒に成長していくということが大事なのだと思う。時間をかけて、一番地道で一

番単純な方法でもいい。何をどこでサポートしてあげられるか、よく見てほしい。そして、子どもの行動について、適切に反応する。そのために、まずは親子の良好な信頼関係を構築する。子どもを観察し、寄り添うことは、とびきり賢い頭がなくてもできること。大事な人と一緒にいる、お母さん、お父さんが後ろについているという認識が、子どもにとって大切である。

話題提供 2

子育てに良い環境を

榊原 洋一

小さな子どもの発達について、おもちゃが発達を促進するのに大きな影響を与えるという話をした。私も郭先生と同じ、小児神経の専門医なので、子どもの発達に関心がある。どういう環境が子どもをよく発達させるのか、ということについて、親だけでなく多くの大人たちが関心を持っている。たくさん研究もある。多くの研究が示しているのは、「どうすれば子どもがよく育つか」というのは正直よく分からないということ。例えば、多田先生がおやつと主食の話をしたが、iPadは多数の環境の一部でしかない。他の環境も考えなければならないので、医学・教育学でも分からない。

しかし大事なことはいくつか分かっている。

- 1) 自分で育っていく力は、どの子どもも持っている。
- 2) どうすれば良い子に育つかという答えは難しいが、子どもに悪い影響を与える因子は分かっている。例えば、ネグレクト、無視、虐待など。テレビやインターネットも悪いのではないか、ということのみなさんも感じていることだと思う。自分と小林先生は、そういうメディアに接することで、どうい

影響を子どもが受けるかという日本におけるフォローアップ研究に参加している。1000人の子どもに対して、どういふテレビ番組を見ているかということ、8年間追ってきた。それで何が分かったかという、子どもはそれほど影響を受けていないということだった。

【フロアとの質疑応答】

Q：多動の子どもについて、どう測定するのか。

【榊原 洋一】子どもは基本的に多動である。特に年齢の小さい子どもは、じっと座っていることができない。みなさんは2時間の講演でもじっとしてられるが、2～4歳の子どもはできない。危険なことがなければ、病的ではないと思う。

細かく診断したい場合は、チェックリストもあるので、それを利用すればいいと思う。

【郭 煌宗】社会的な規範を守れるかどうか一つの尺度だと思う。また、個性なのか、病的なものなのかに分かれてくる。子どもの気質、性別、知能、文化的背景、認知能力によっても異なる。また、親の教養やしつけ、関わりも大きな影響を与える。

ピアジェの理論によれば、0～2歳は知覚動作を練習する時期、3～7歳はシンボリックな遊びをする時期、8歳からはルールを覚え規則的な遊びも始める時期である。この視点から見れば、ひとつの参考ではあるが、子どもの成長を考えると、その延長線上に、想像の遊びの時期が入る。3歳6ヶ月、7ヶ月になると、恐竜や車の遊びだけではなく、それを延長していく時期になってくると予想される。

ただし、もし車でばかり遊んでいて、

よく見ると、並べるといふ行為が何歳になっても変わらなかったら、例えば1歳、2歳、3歳になっても、ずっと同じ並べ方だったら、もしかしたら？と心配してもいいかもしれない。また、観察者が、ちょっと車をずらすと、子どもが怒り出すようだったら、もしかしたら？と疑問を持っていいかもしれない。子どもの視線におかしいことはないか、声をかけたときの反応はどうか。自閉症の疑いがあるかどうか。多方面からのアプローチを試みる必要がある。あまり心配だったら、病院などの専門機関に行った方がいいだろう。



東アジア子ども学 交流プログラムの概要

開催趣旨 育児・保育・教育に関する東アジアの大学、研究者の相互交換講義を支援し、子ども学の普及と国際化を目指す。その結果、子どもを取り巻く諸問題の解決や環境改善に役立つような学術活動を推進する。

主催 チャイルド・リサーチ・ネット (Child Research Net)
華東師範大学

共催 (株)ベネッセコーポレーション
ベネッセ次世代育成研究所

後援 中華人民共和国駐日本国大使館
日本子ども学会
日本赤ちゃん学会
異文化比較学会
日中教育交流会議 など

事務局 チャイルド・リサーチ・ネット (Child Research Net)
<http://www.crn.or.jp>
<http://www.childresearch.net>

発行日 2013年3月31日

発行 チャイルド・リサーチ・ネット (CRN)
〒206-8686
東京都多摩市落合1-34
(株)ベネッセコーポレーション内

編集人 後藤 憲子

編集スタッフ 劉 愛萍
中田 麗子
張 志剛
櫻井 玲子
内田 幸枝
喬 慧中
黄 穎

翻訳 李 臨安 (日→中)
Sarah Allen (日→英)

デザイン 森 一典デザイン事務所
富田 淳子

本プログラムは、2007年11月に上海華東師範大学で発足し、長沙、東京、杭州、東京、上海、北京、鄭州の開催を経て、2012年には、台北で活動を行いました。本書は2012年の報告です。